

第2章 群馬県における自殺の現状

1 群馬県における自殺の現状

- ・本県における自殺者数は、平成15年の562人をピークとして、平成29年には332人と総数では減少傾向となっています。
- ・本県の自殺死亡率は17.4であり、男女ともに減少傾向で推移していますが、全国平均の16.4を上回っています。
- ・15歳～39歳の死因の1位は自殺となっています。
- ・年齢階級別では、自殺者数が減少傾向にある年代が多い中で、10代の自殺者数は、平成9年以降概ね横ばいで推移しています。
- ・年齢、性別、職業・同居の有無別に5年間の自殺者全体に占める割合を見ると、上位5区分は以下のとおりとなっています。

1位：60歳以上の男性、無職、同居者あり	13.0%
2位：60歳以上の女性、無職、同居者あり	11.7%
3位：40～59歳の男性、有職、同居者あり	10.4%
4位：60歳以上の男性、無職、独居	6.6%
5位：20～39歳の男性、有職、同居者あり	6.0%

【出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」】

- ・自殺者数では、男女とも60歳以上の高齢無職者が多いですが、20～59歳の有職の男性も多い結果となっています。
- ・自殺死亡率では、40～59歳男性、無職、独居の人が特に高くなっています。
- ・職業別にみると、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者の割合が53.1%を占めています。
- ・自殺者数のうち自殺未遂歴のある人の割合は、男女ともに全国よりも若干多く、男性は18.3%、女性は34.2%となっています。

➤ 自殺者数、自殺死亡率、年齢別、職業の有無別の現状等からみると、特に、若者、高齢者、生活困窮者、就業者、自殺未遂者を含むハイリスク者を対象とした重点的な取組が必要であると言えます。

※人口動態統計

- ・人口動態統計は、日本における日本人を対象として、住所地をもとに死亡時点で計上。自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上していない。
- ・本計画の本文中では、主に人口動態統計による数値を使っており、第5章の数値目標も人口動態統計による数値目標。

※警察庁による統計

- ・警察による統計は、総人口（日本における外国人も含む）を対象として、発見地をもとに自殺死体発見時点（正確には認知）で計上。自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは、捜査等により自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し計上。

※地域における自殺の基礎資料

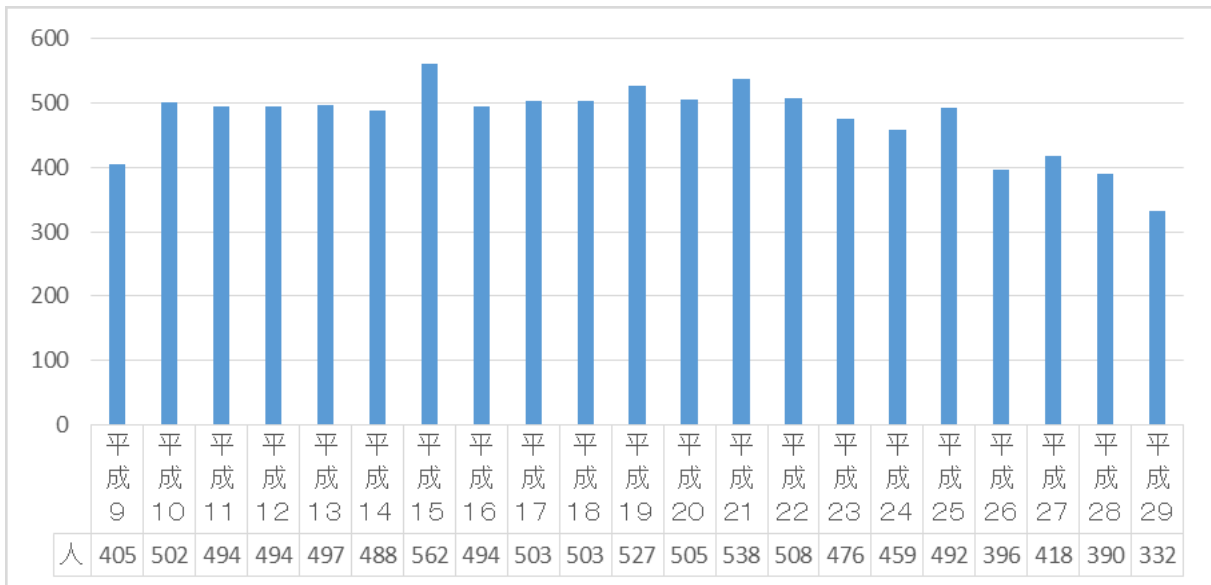
- ・厚生労働省自殺対策推進室において、警察庁から提供を受けた自殺統計原票データに基づき集計を行ったもの。「自殺日（自殺した日）」「発見日（発見された日）」と「住居地（住居があった場所）」「発見地（発見された場所）」の4つの組み合わせにより集計。
- ・ここでいう「地域における自殺の基礎資料」は、「自殺日・住居地」を使用。

注)「第2章 群馬県における自殺の現状」で掲載している表及び図は、「全国」と表示のないものは、すべて群馬県の統計資料となっています。

(1) 群馬県の自殺者数・自殺死亡率の推移

- 本県の自殺者数は、平成10年に502人と前年の405人から急増し、平成15年の562人をピークに500人前後で推移してきました。
- 平成21年以降は増減を繰り返しながら減少傾向にあり、平成29年には332人まで減少しました。しかし、依然として多くの方が自殺で亡くなっているという現状にあります。

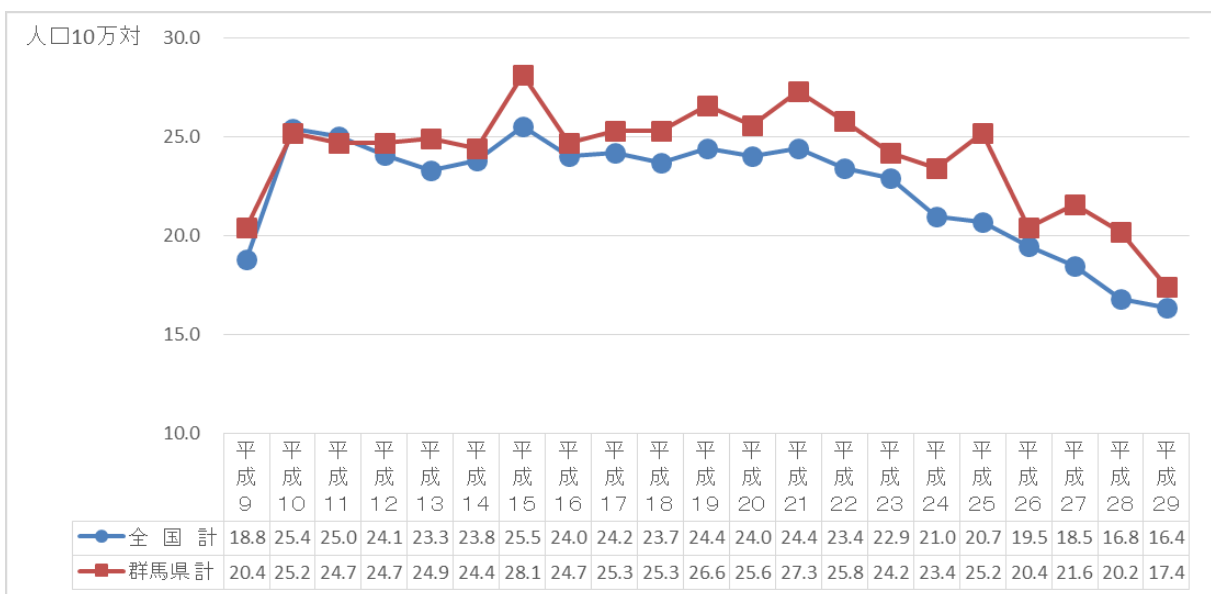
図2 自殺者数の推移



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概要（確定数）」

- 平成29年の自殺死亡率は、全国16.4に対し本県は17.4であり、全国を上回っています。経年的にみても、全国を上回っている状態が続いています。

図3 群馬県と全国の自殺死亡率の推移



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概要（確定数）」

注) 自殺死亡率 人口10万人当たりの自殺者数

○平成29年の本県の死因順位をみると自殺は13位ですが、年齢階級別にみると15～39歳の各年齢階級において自殺が第1位となっています。

○40～64歳までの年代でも、死因の第4位までに自殺が入っています。

表1 死因順位（平成29年）

死因順位	死因	死亡数 (県全体)	死亡率 (人口10万対)	死亡割合
1位	悪性新生物<腫瘍>	5,994	313.3	26.5
2位	心疾患(高血圧性を除く)	3,396	177.5	15.0
3位	脳血管疾患	1,990	104.0	8.8
4位	肺炎	1,859	97.2	8.2
5位	老衰	1,528	79.9	6.8
6位	不慮の事故	699	36.5	3.1
7位	誤嚥性肺炎	556	29.1	2.5
8位	高血圧症疾患	408	21.3	1.8
9位	腎不全	385	20.1	1.7
10位	慢性閉塞性肺疾患	362	18.9	1.6
11位	血管性及び詳細不明の認知症	361	18.9	1.6
12位	アルツハイマー病	353	18.5	1.6
13位	自殺	332	17.4	1.5

出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概要（確定数）」

表2 年齢階級別死因順位（平成29年）

	1位		2位		3位		4位	
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数
10～14歳	先天奇形 変形及び染色体異常	…	心疾患(高血圧性を除く) 不慮の事故 自殺	…	—	—	—	—
15～19歳	自殺	10	不慮の事故	…	悪性新生物<腫瘍> 心疾患(高血圧性を除く) 肺炎	…	—	—
20～24歳	自殺	14	不慮の事故	…	悪性新生物<腫瘍>	…	心疾患(高血圧性を除く) 脳血管疾患	…
25～29歳	自殺	20	不慮の事故	6	悪性新生物<腫瘍>	…	糖尿病 心疾患(高血圧性を除く) 脳血管疾患 大動脈瘤及び解離 肺炎 誤嚥性肺炎	…
30～34歳	自殺	16	悪性新生物<腫瘍>	7	不慮の事故	…	心疾患(高血圧性を除く)	…
35～39歳	自殺	22	悪性新生物<腫瘍>	14	脳血管疾患 不慮の事故	各7	心疾患(高血圧性を除く)	…
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	40	自殺	25	心疾患(高血圧性を除く) 脳血管疾患	各15	不慮の事故	11
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	61	心疾患(高血圧性を除く)	27	自殺	26	脳血管疾患	21
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	128	心疾患(高血圧性を除く)	49	自殺	33	脳血管疾患	23
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	164	心疾患(高血圧性を除く)	54	脳血管疾患	35	自殺	24
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	317	心疾患(高血圧性を除く)	106	脳血管疾患	58	自殺	30

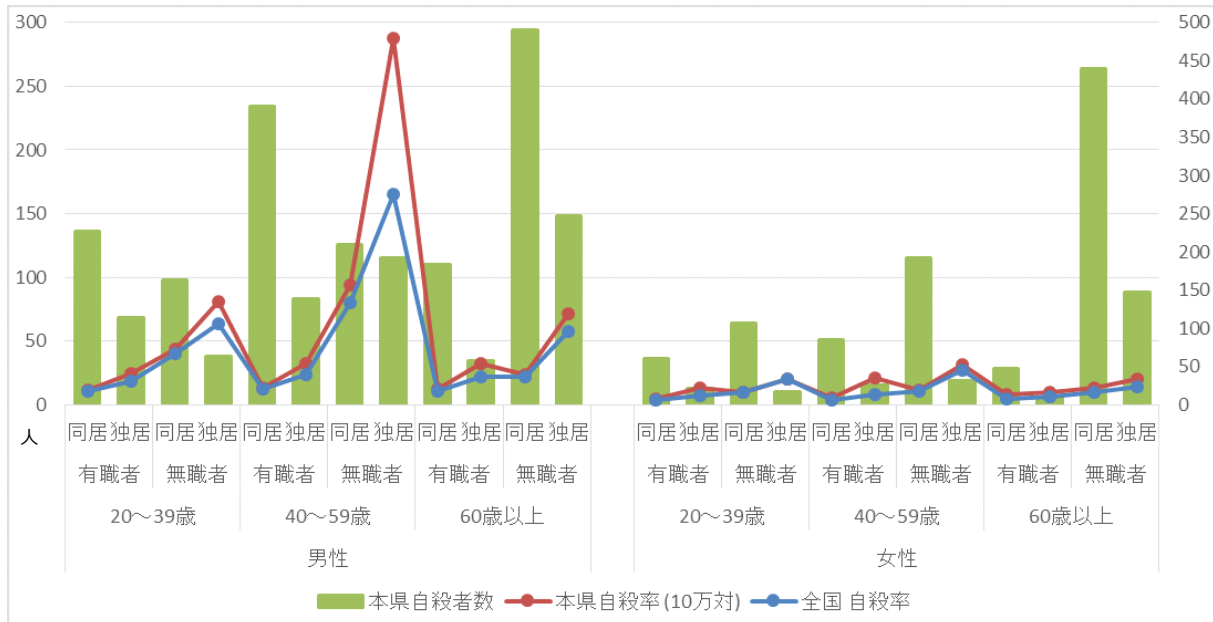
※5人以下の数値は…で表示

出典：厚生労働省「人口動態統計」

(2) 群馬県における自殺の特徴

- 平成24年から平成28年の5年間の自殺者の合計を年齢、性別、職業・同居者の有無別にみると、自殺者数では男女とも60歳以上の無職者が多く、次いで男性は40～59歳の有職者、女性は40～59歳の無職者となっています。
- 自殺死亡率では、40～59歳の無職の独居男性が特に高くなっています。

図4 群馬県における自殺の特徴（H24～H28）

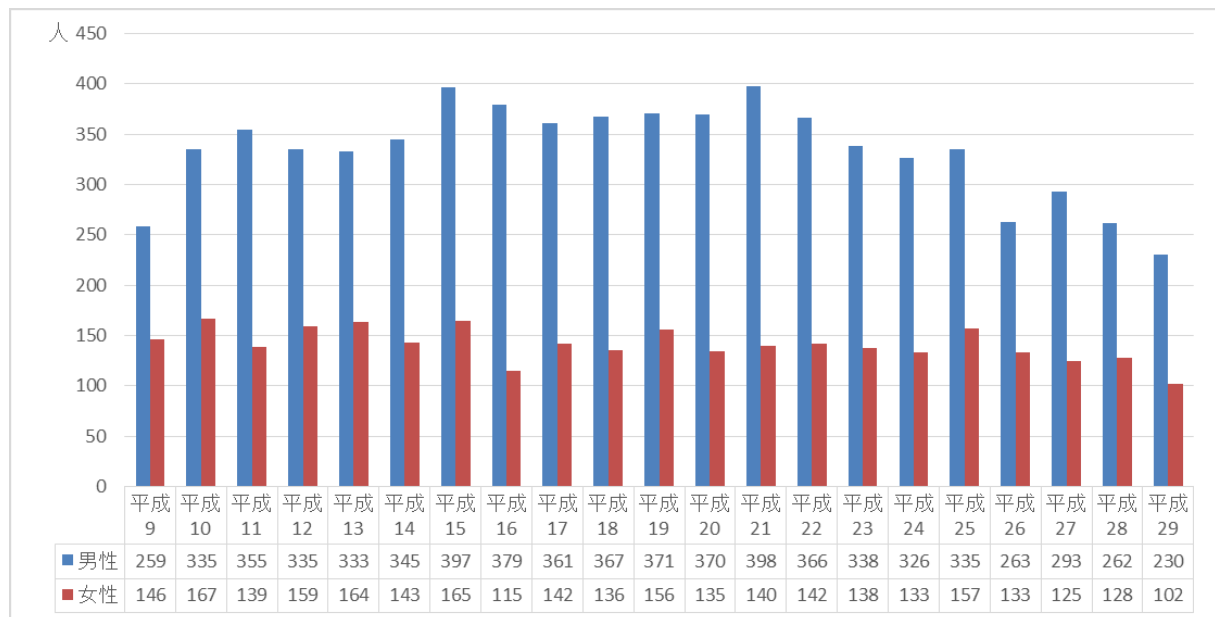


出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」

(3) 性別・年齢による状況

- 性別の自殺者数では、平成5年から平成9年までの平均は男性が女性の1.7倍でしたが、平成10年には男性が急増しました。
- その後も男性が女性を大幅に上回る状況が続き、平成29年は男性が女性の約2.3倍となっています。

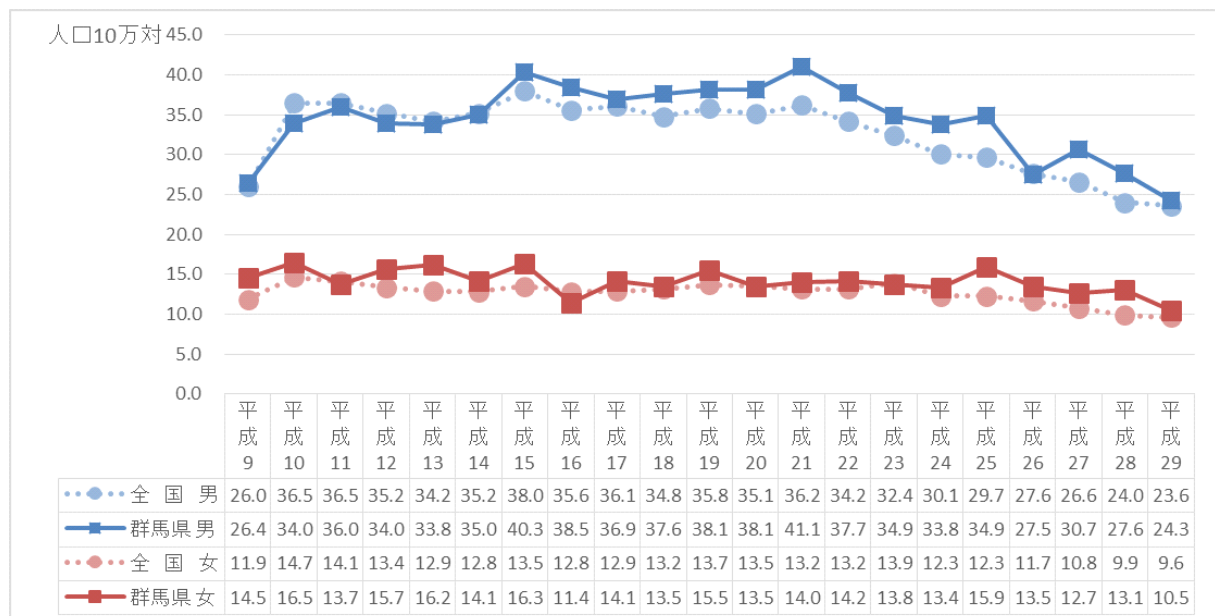
図5 性別自殺者数の推移



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概況（確定数）」

○性別の自殺死亡率では、平成9年以降、男女とも概ね国の自殺死亡率を上回って推移しています。

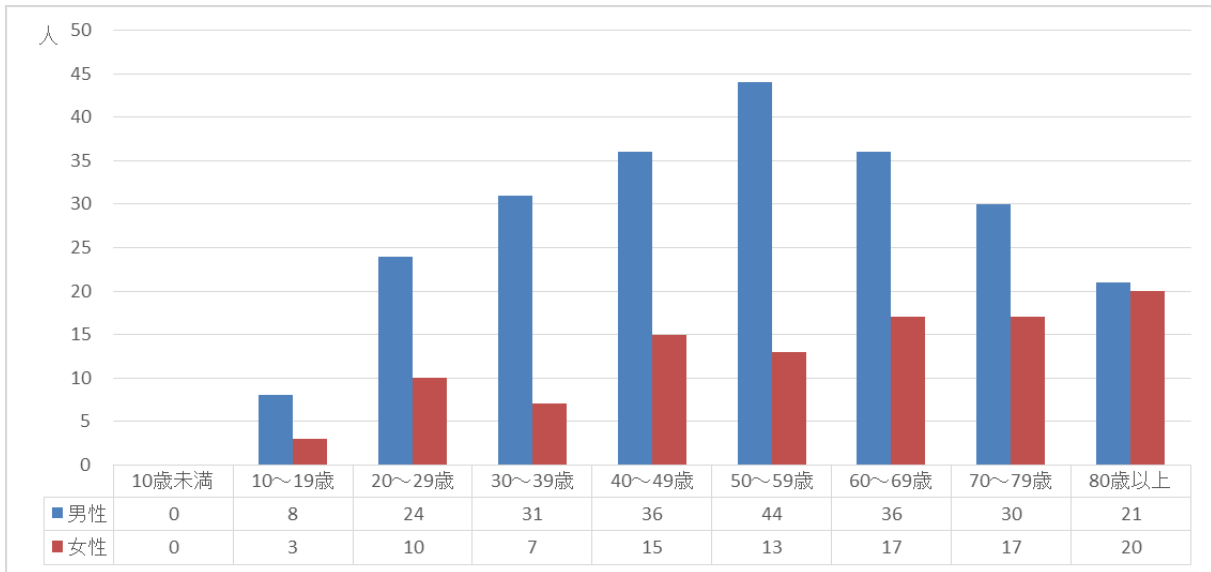
図6 群馬県と全国の性別自殺死亡率の推移



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概況（確定数）」

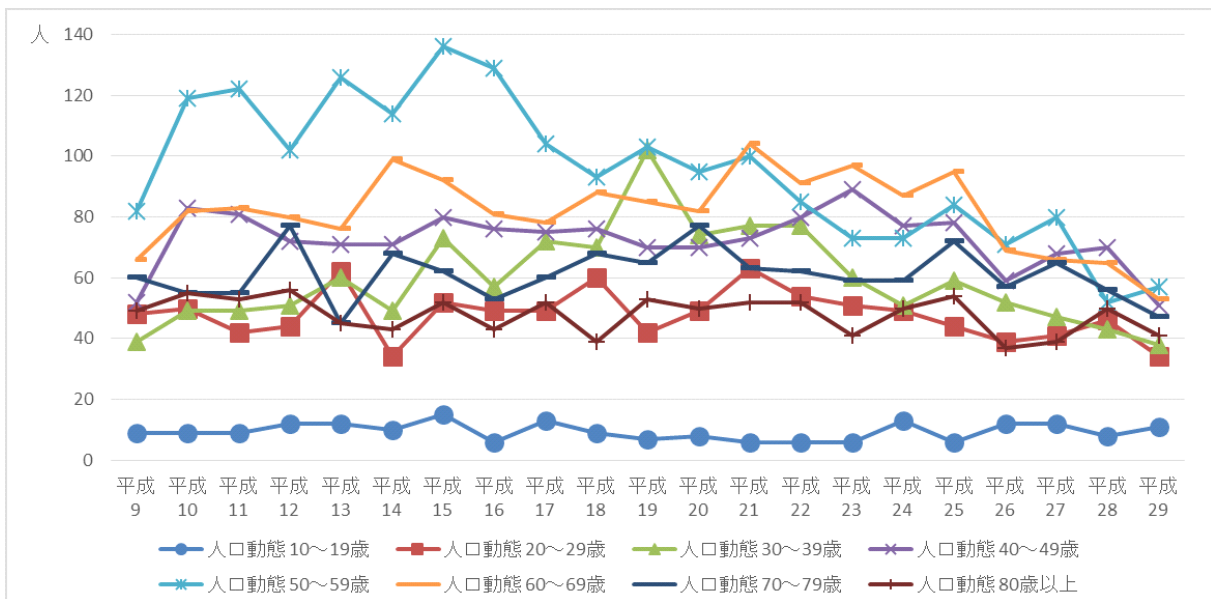
- 平成29年の年齢階級別の自殺者数をみると、男性は50歳代を中心とした中高年層、女性は60歳以上の高齢者が多い傾向があります。
- 自殺者数が減少傾向にある年代が多い中で、10代の自殺者数は、平成9年以降概ね横ばいで推移しています。

図7 群馬県の性・年齢階級別自殺者数（平成29年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」

図8 群馬県の自殺者数の年齢階級別推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

<参考> 地域における自殺の基礎資料「自殺日・住居地」による自殺者数

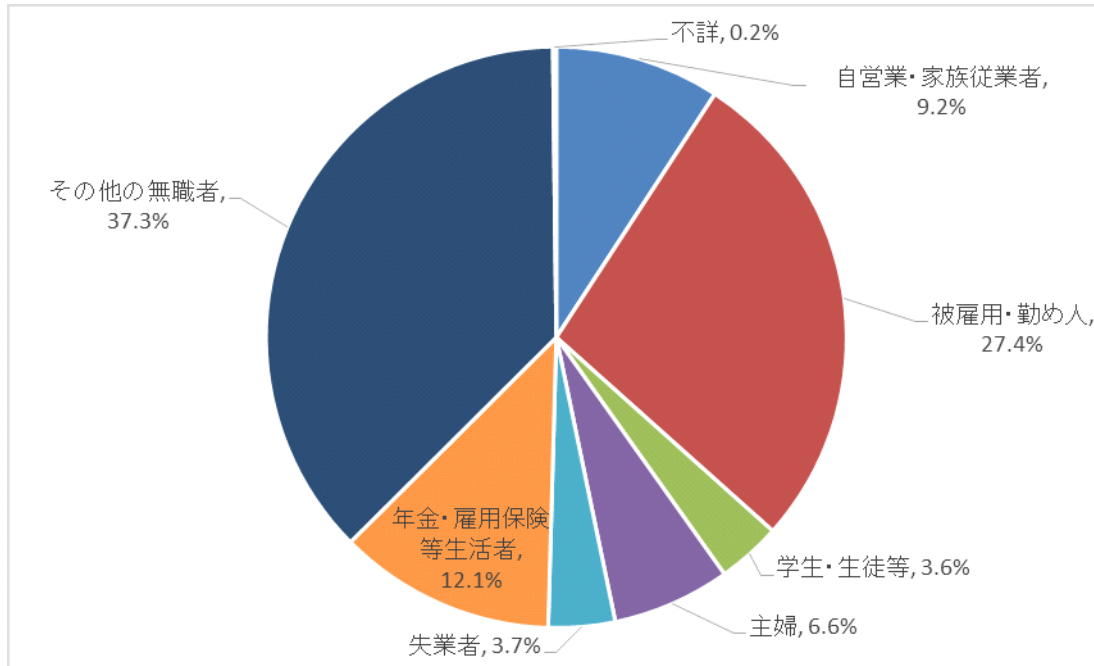
	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	不詳	合計
男性	39	138	190	247	269	248	188	127	0	1,446
女性	13	59	61	109	90	122	124	107	0	685
合計	52	197	251	356	359	370	312	234	0	2,131

※平成25年から平成29年までの合計

(4) 職業別の状況

- 平成25年から平成29年の5年間の自殺者を職業別にみると、多い順にその他無職者、被雇用・勤め人、年金・雇用保険等生活者等となっています。
- 自殺者のうち、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者を合計した無職者が、全体の53.1%を占めています。

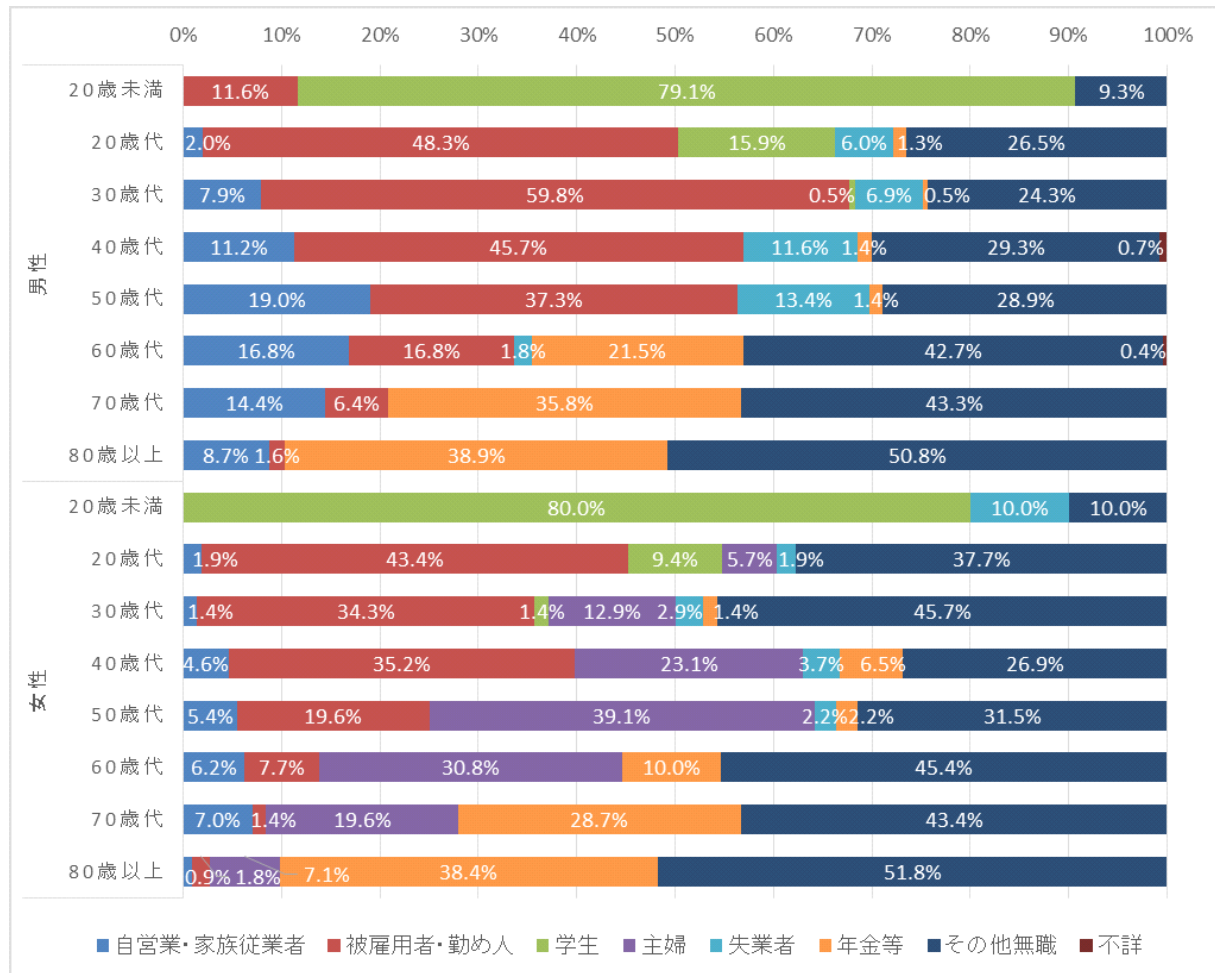
図9 自殺者の職業別の割合（平成25～29年）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

○平成24年から平成28年の状況を年齢・性別・職業別にみると、20歳未満は「学生」が多く、60歳以上は「年金等」、「その他無職」が多くなっています。20～50歳代では「被雇用者・勤め人」が多いですが、男性の40歳代、50歳代では「失業者」がそれぞれ10%以上を占め、女性では「被雇用者・勤め人」、「主婦」の割合が高くなっています。

図10 年齢・性別・職業別の割合



出典：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2017）」

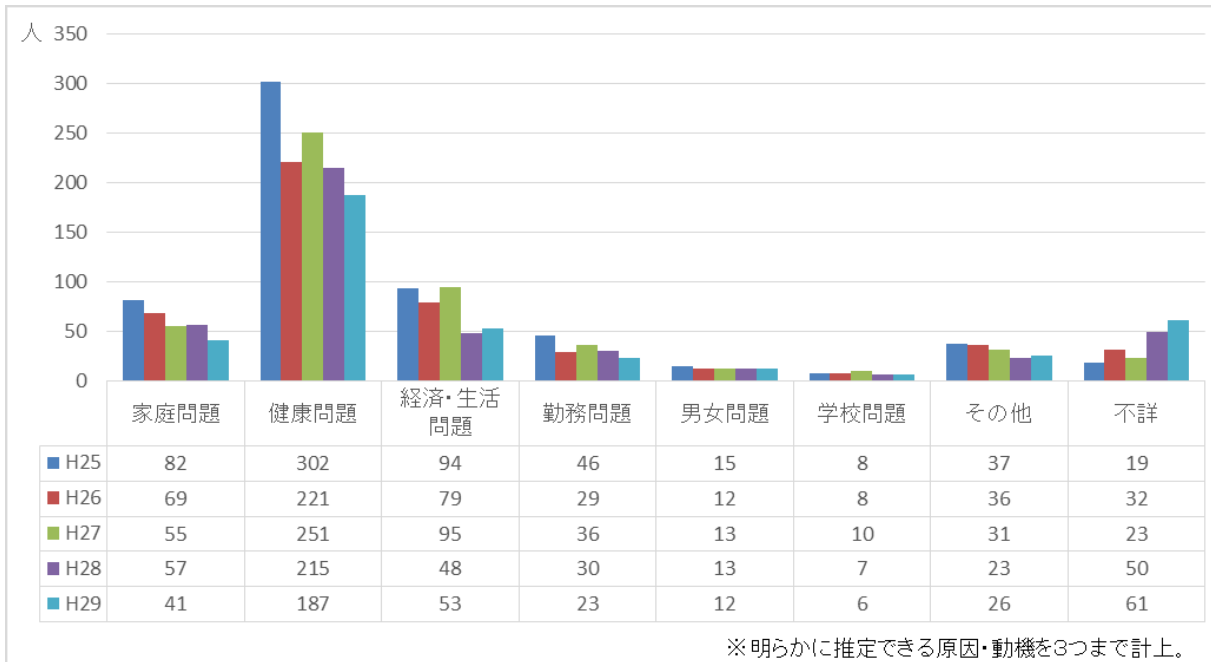
(5) 原因・動機別の状況

○平成25年から平成29年までの原因・動機別自殺者の状況を見ると、健康問題が一番多くなっていますが、近年減少傾向にあります。

○健康問題に次いで多いのが経済・生活問題ですが、28年は家庭問題が経済・生活問題を上回っています。

※図11から図13では、明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上していますが、自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きているものであり、関連施策の有機的な連携のもと、総合的な対策を実施することが必要です。

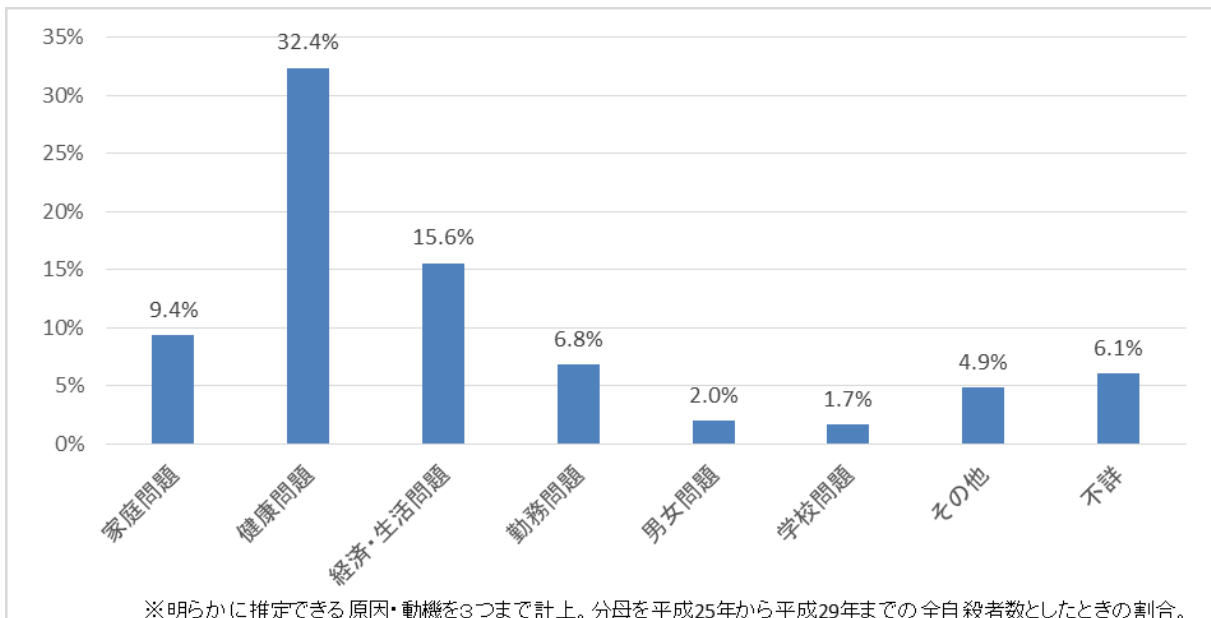
図11 原因・動機別



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

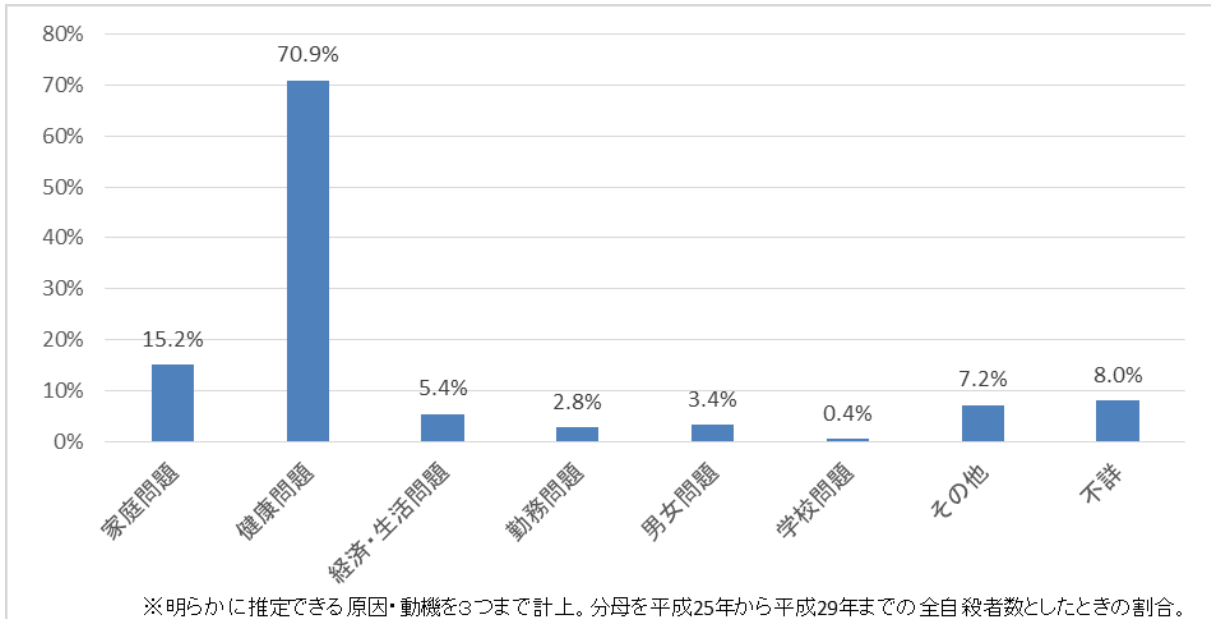
○平成25年から平成29年までの状況を男女別にみると、男女とも健康問題が多く、特に女性でその傾向が強くなっています。男性は、経済・生活問題、勤務問題、学校問題が女性に比べて高い割合となっています。

図12 原因・動機別（男性）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

図13 原因・動機別（女性）

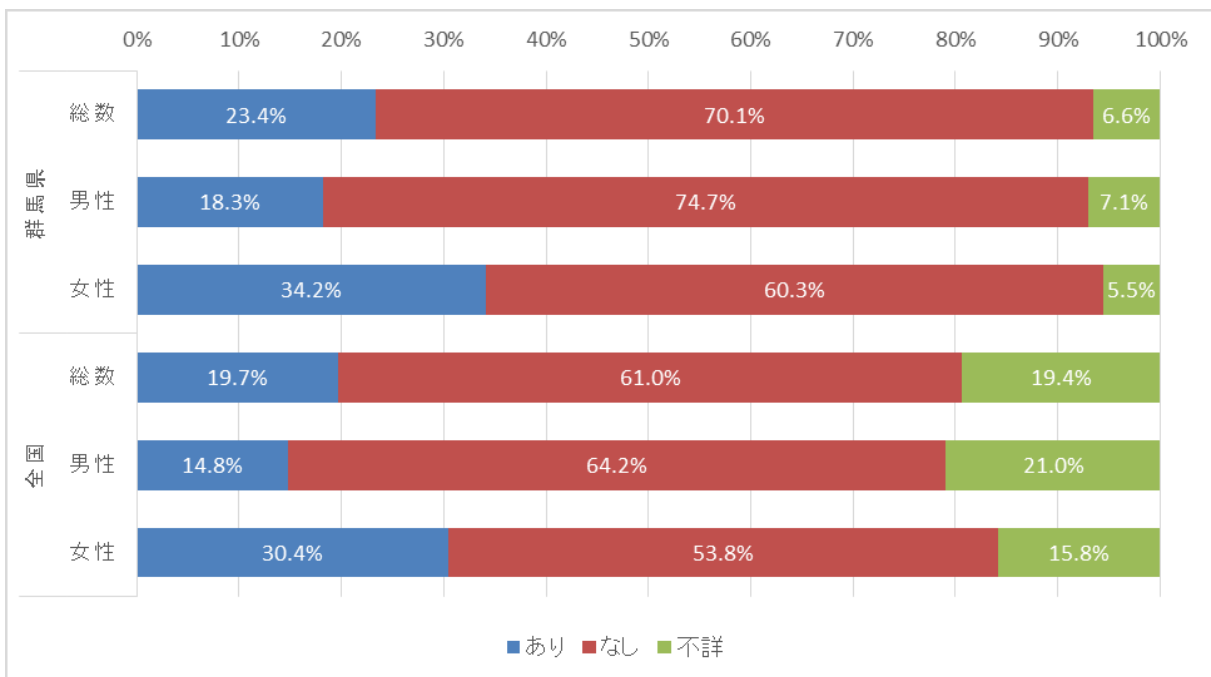


出典:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(6) 自殺未遂歴の状況

○平成25年から平成29年までの状況を見ると、自殺者数のうち自殺未遂歴のある人の割合は、男性が18.3%、女性が34.2%であり、女性のほうが高くなっています。また、男女とも全国平均を上回っています。

図14 自殺未遂歴の有無

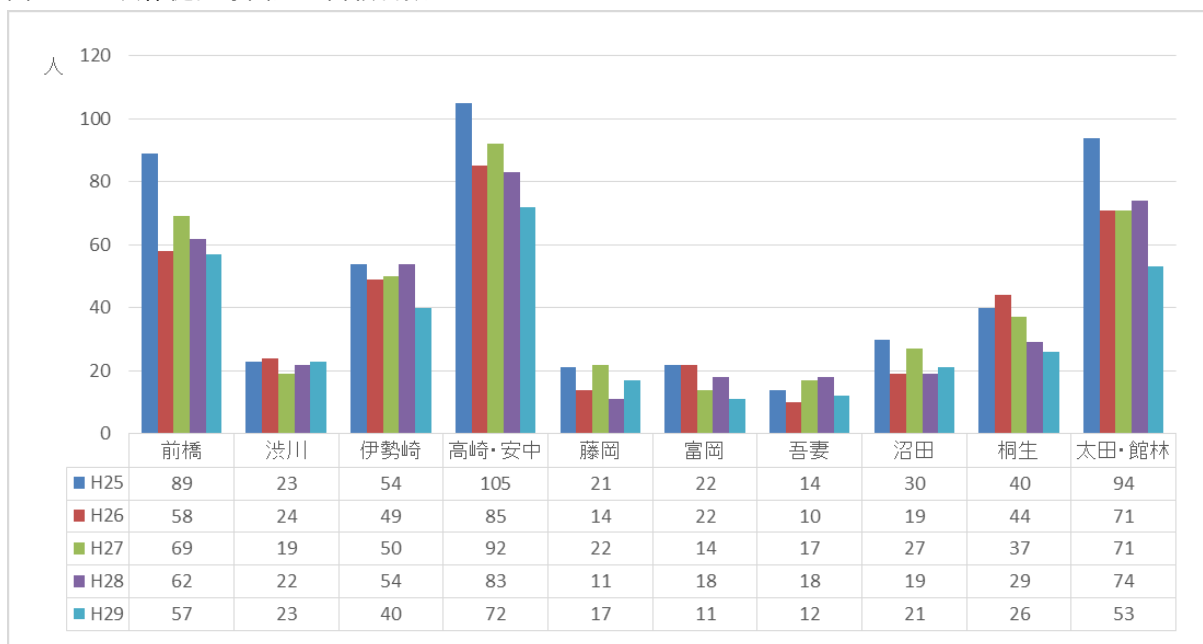


出典:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(7) 2次保健医療圏別の状況

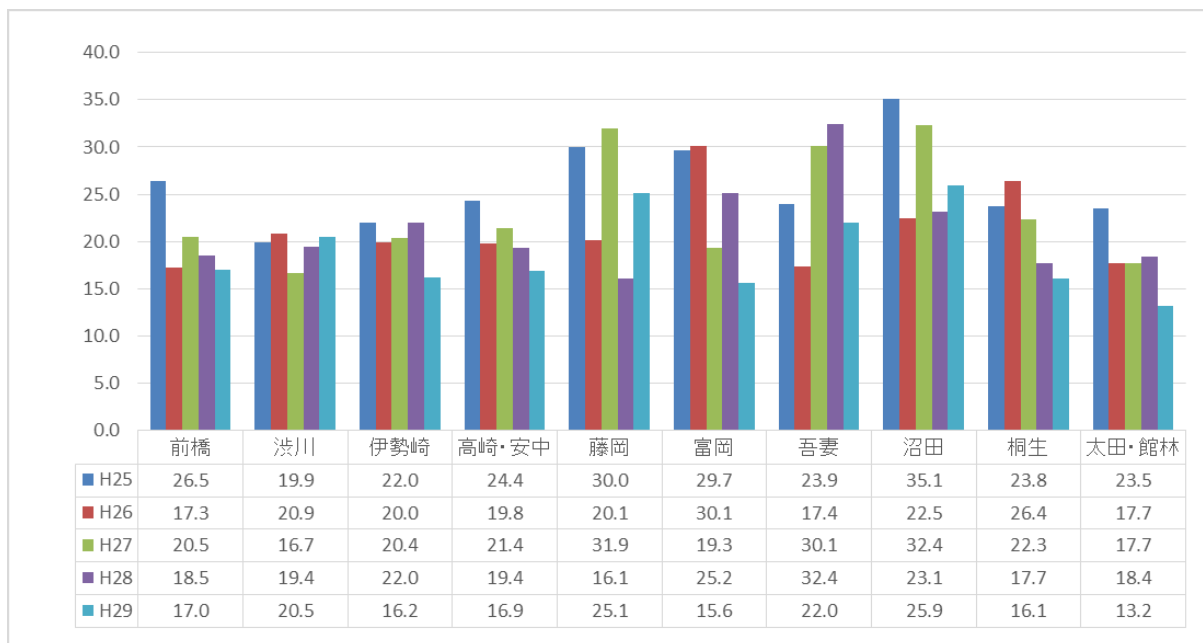
- 2次保健医療圏ごとの自殺者数、自殺死亡率をみると、地域や年によってばらつきがあることがうかがえます。

図15 2次保健医療圏別の自殺者数



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概況（確定数）」

図16 2次保健医療圏別の自殺死亡率



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概況（確定数）」

注) 2次保健医療圏(*)の構成市町村

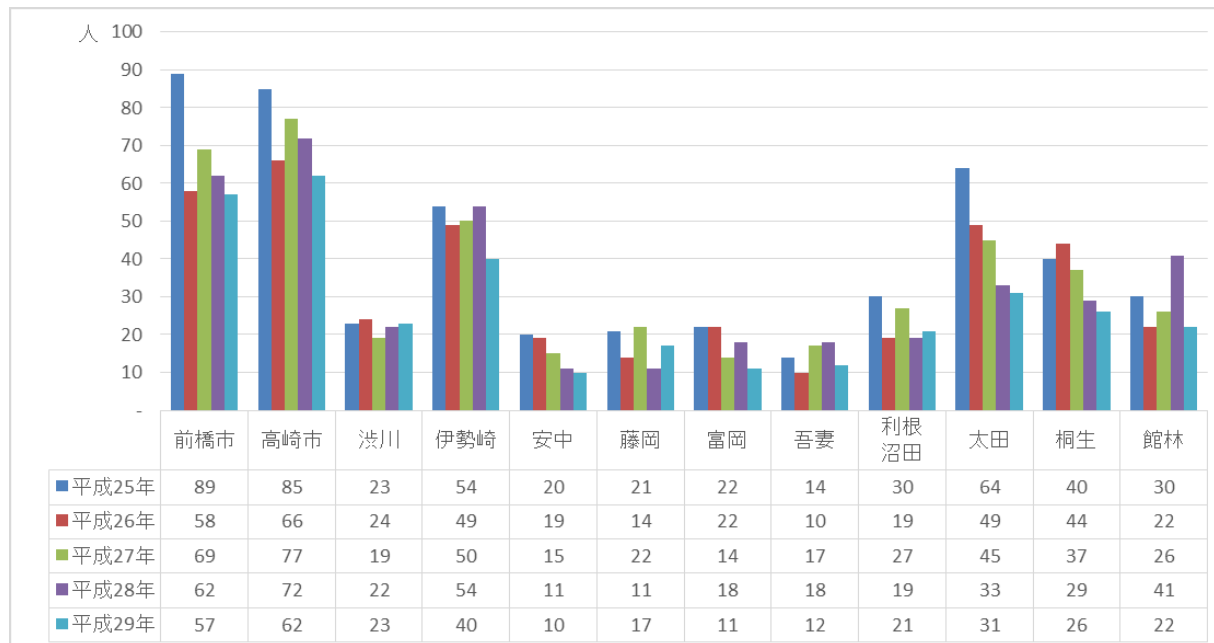
前橋保健医療圏〔前橋市〕、
 渋川保健医療圏〔渋川市、榛東村、吉岡町〕、
 伊勢崎保健医療圏〔伊勢崎市、玉村町〕、
 高崎・安中保健医療圏〔高崎市、安中市〕、
 藤岡保健医療圏〔藤岡市、上野村、神流町〕、
 富岡保健医療圏〔富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町〕、
 吾妻保健医療圏〔中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町〕、
 沼田保健医療圏〔沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町〕、
 桐生保健医療圏〔桐生市、みどり市〕、
 太田・館林保健医療圏〔太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、
 邑楽町〕

* 高度・特殊な医療を除く一般的な入院医療や、比較的専門性の高い保健医療サービスの提供を行う圏域。

(8) 中核市・保健福祉事務所管内別の状況

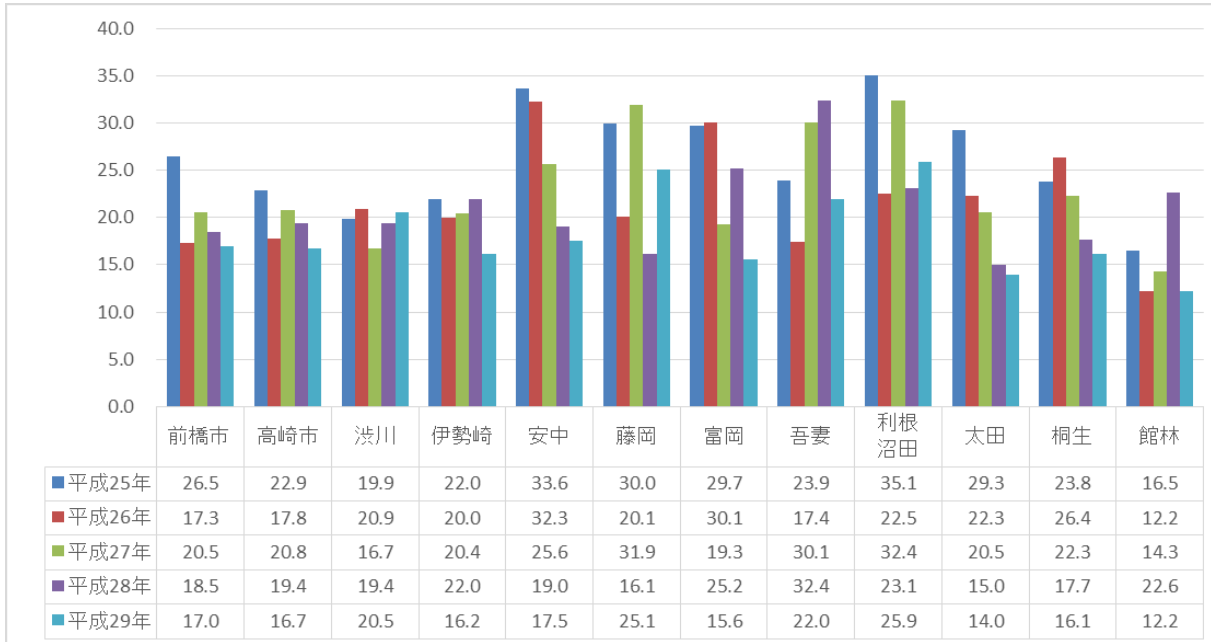
○中核市と各保健福祉事務所の管内別の自殺者数、自殺死亡率をみると、地域や年によってばらつきがあることがうかがえます。

図17 中核市・保健福祉事務所管内別自殺者数



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概況（確定数）」

図18 中核市・保健福祉事務所管内別自殺死亡率



出典：群馬県「健康福祉統計年報」、「平成29年群馬県の人口動態統計概況（確定数）」

注) 保健福祉事務所管轄地域

渋川〔渋川市、榛東村、吉岡町〕、伊勢崎〔伊勢崎市、玉村町〕、
 安中〔安中市〕、藤岡〔藤岡市、上野村、神流町〕、
 富岡〔富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町〕、
 吾妻〔中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町〕、
 利根沼田〔沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町〕、
 太田〔太田市〕、桐生〔桐生市、みどり市〕、
 館林〔館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町〕

2 群馬県自殺対策に関する意識調査

I 自殺やうつに関する意識について

- ・これまでの人生の中で自殺を考えた経験がある人は2割程度でしたが、最近1年以内に自殺をしたいと思ったと回答した人は全体の5.6%でした。
- ・最近1年以内に自殺をしたいと思ったと回答した5.6%の人のうち、不満や悩みやつらい気持ちに耳を傾けてくれる人がいると感じている人は、約6割でした。全体では8割以上であったことと比べると、低くなっています。
- ・自分自身のうつ病のサインに気がついたとき、何も利用しないと回答した人の割合は、自殺を考えた経験がある人ほど高い傾向ということが分かりました。

➤ 自殺をしたいと思っている人の自殺の危険を示すサインに気づき、声をかけ、話を聴き、必要に応じて専門家につなぎ、見守る役割を担える人材の養成等により生きることの支援を行うことが求められます。

II 自殺予防に関する認識について

- ・毎年多くの方が自殺で亡くなっていることについて約半数の人が認識していたのに対し、本県において400人もの方が亡くなっているということについての認識は15.0%と比較的低いことがわかりました。また、この割合は、5年前に行った同様の調査結果よりもさらに低くなっています。
- ・また、8割以上の方が児童生徒の段階で自殺予防について学ぶ機会があった方が良いと考えています。

➤ 多くの方が自殺予防の大切さについての認識はしていますが、自殺の問題は、一部の人や地域だけの問題ではなく、誰もが当事者となり得る問題であることについても、一層の理解の促進を図る必要があります。

(1) 調査の目的

自殺対策等に関する県民の意識や、これまでの普及啓発に関する認知度などを把握し、今後の自殺対策の推進に役立てることを目的として実施しました。

(2) 調査対象

群馬県内在中の20歳以上の男女 3,722人

各市町村の住民基本台帳に基づき、無作為抽出法（層化抽出法）により抽出
（各市町村の最低標本数を50とする。）

(3) 調査期間

平成30年（2018年）2月22日～3月26日

(4) 主な調査結果

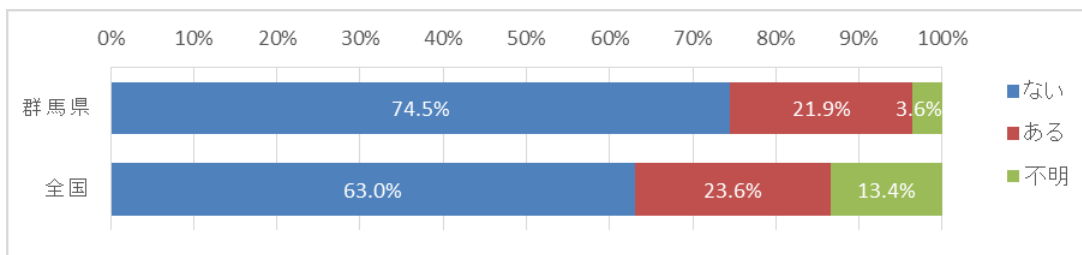
主な調査結果は、以下のとおりです。

I 自殺やうつに関する意識

(1) 自殺を考えた経験

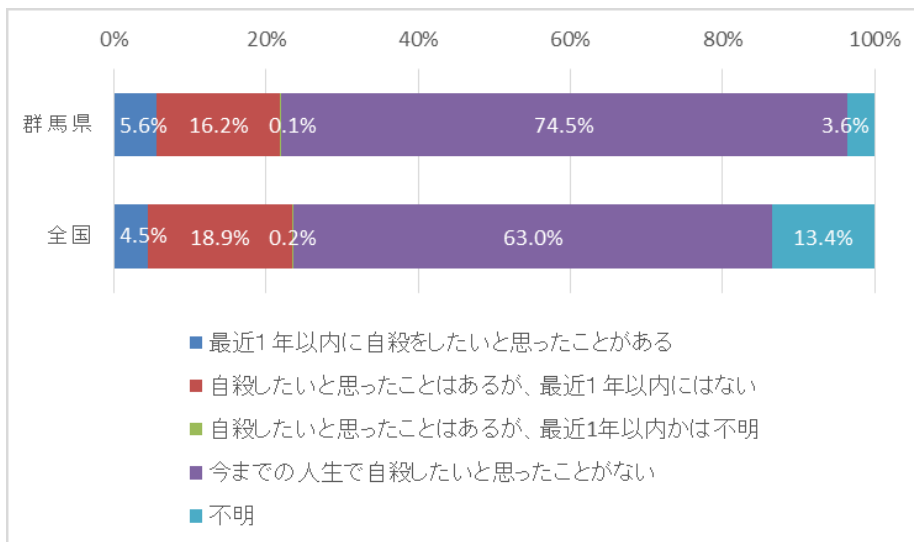
ア これまでの人生の中で、本気で自殺をしたいと考えたことがある人の割合は、約2割に上ることがわかりました。ただ、全国調査結果と比較するとやや低い結果となっています。

図19 これまでの人生の中で、本気で自殺をしたいと考えたことがあるか



イ これまでの人生の中で、本気で自殺をしたいと考えたことがある人のうち、最近1年以内に自殺をしたいと思ったという人の割合は4分の1を占め、全体では約5%になるということがわかりました。

図20 最近1年以内に自殺をしたいと思ったことがあるか



(2) 不満や悩みやつらい気持ちに耳を傾けてくれる人の有無

不満や悩みやつらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人について、8割以上の人がいると思うと感じていることがわかりました。

しかし、1年以内に自殺をしたいと考えたことがある人に限って見ると、そのように感じている人の割合は、約6割にとどまっています。

図21 不満や悩みやつらい気持ちに耳を傾けてくれる人がいるか

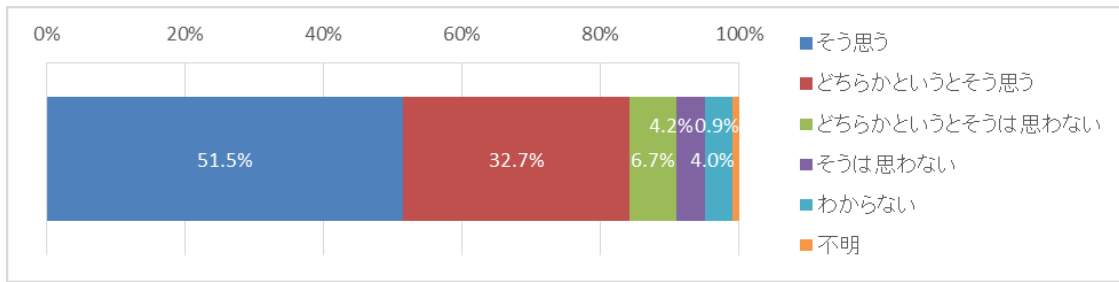
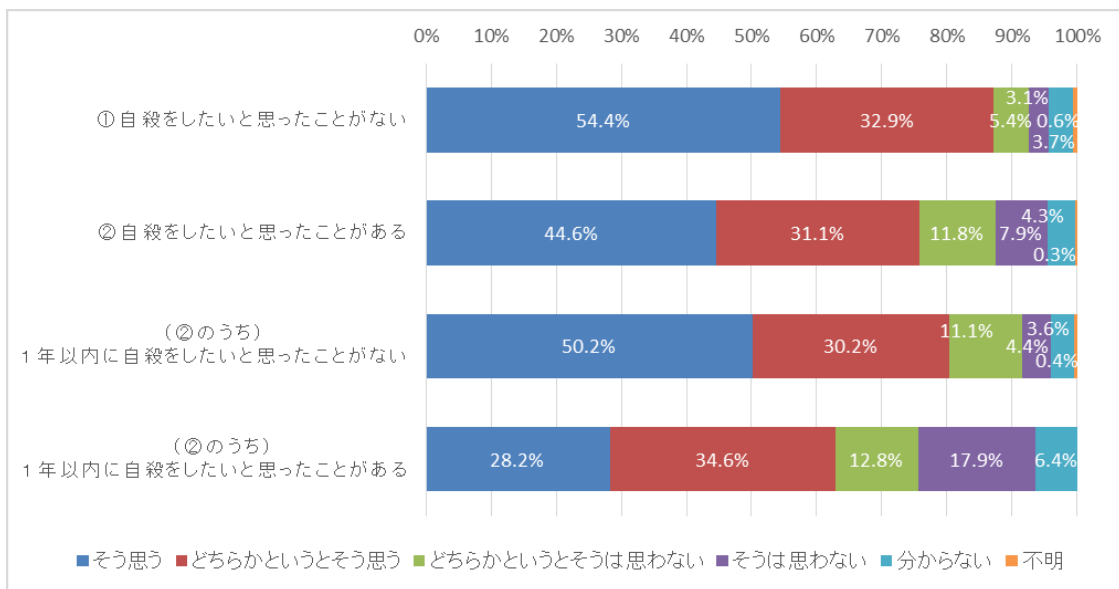


図22 不満や悩みやつらい気持ちに耳を傾けてくれる人がいるか

【自殺をしたいと思ったことの有無別】



(3) 自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき

自分自身のうつ病のサインに気づいたとき、精神科や心療内科等の医療機関を利用するという人は、約半数となっています。

一方、約1割の人は何も利用しないと回答しており、自殺をしたいと考えたことがある人ほどその傾向が強いことが分かりました。

図23 自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、どれを利用したいか

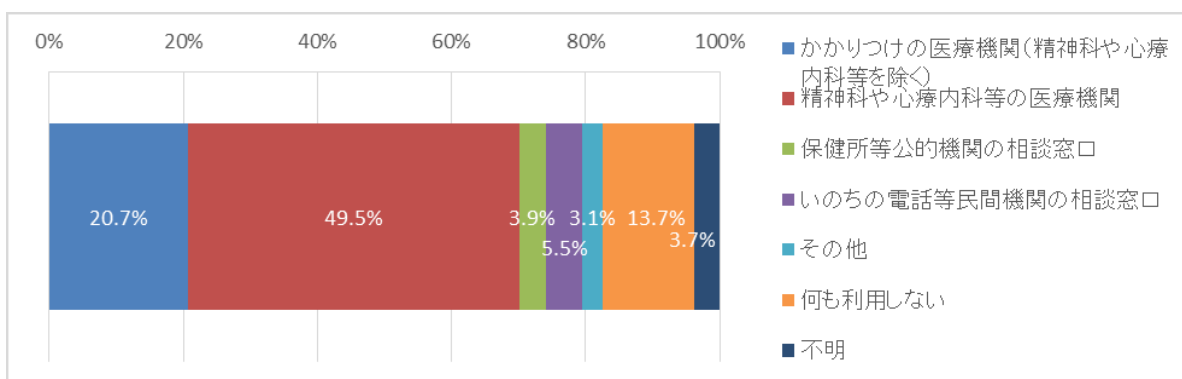
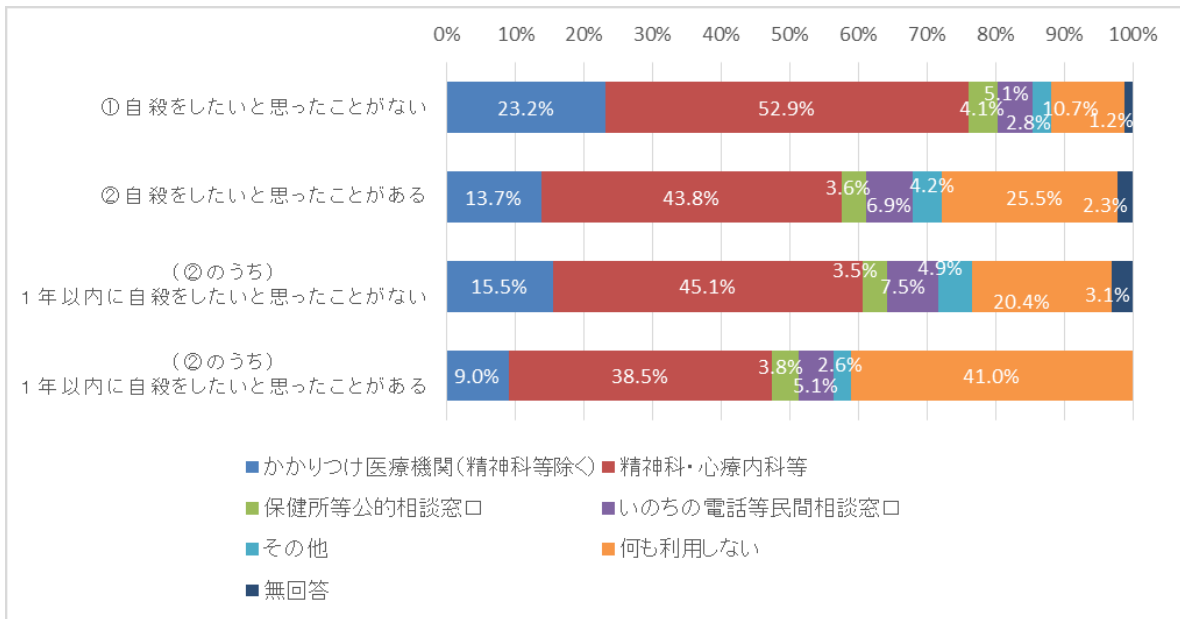


図24 自分自身の「うつサイン」に気づいたとき、どれを利用したいか

【自殺をしたいと思ったことの有無別】



II 自殺予防に関する認識

(1) 多くの方が自殺で亡くなっていることの認識

毎年、多くの方が自殺で亡くなっていることについて知っているかどうか聞きました。

半数以上の方が知っていたと回答しましたが、群馬県でも毎年400人前後の方が自殺で亡くなっていることについて、知っていたという人は15.0%でした。

また、群馬県の自殺の現状について知っていたという人の割合は、5年前の前回調査からわずかに減少しており、本県の自殺に関する認知度に課題があることが分かりました。

図25 毎年多くの方が自殺で亡くなっていることを知っているか

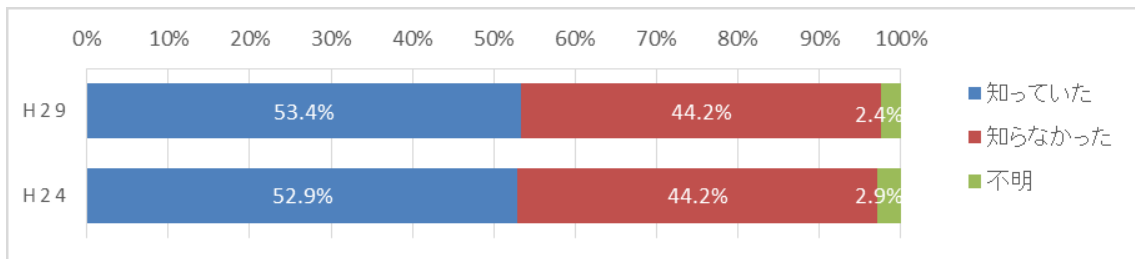
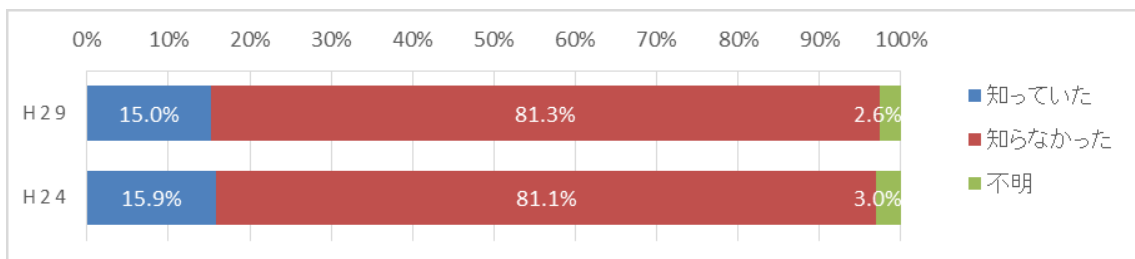


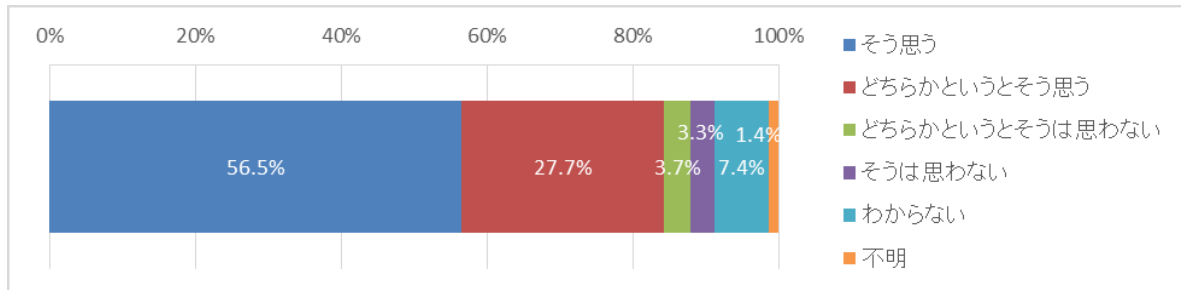
図26 群馬県でも毎年400人前後の方が自殺で亡くなっていることを知っているか



(2) 児童生徒の段階で自殺予防について学ぶ機会の有無

児童生徒が自殺予防について学ぶ機会の必要性について聞いたところ、8割以上の人が、必要があると感じていることがわかりました。

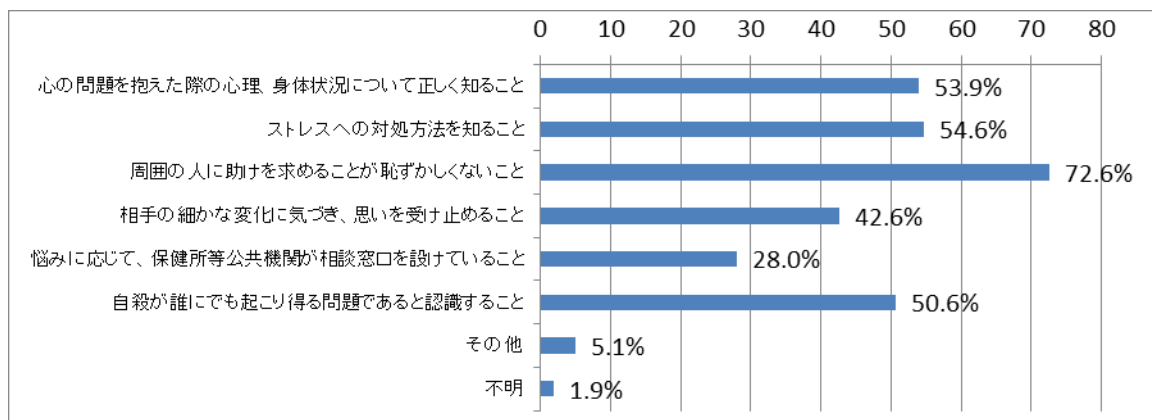
図27 児童生徒の段階で自殺予防について学ぶ機会があったほうがよいか



(3) 児童生徒の段階で、どのようなことを学べば自殺予防に資するか

7割以上の方が、「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」を学べると良いと感じていることがわかりました。また、半数以上の方が、「心の問題を抱えた際の心理、身体状況について正しく知ること」、「ストレスへの対処法を知ること」、「自殺が誰にでも起こりうる問題であると認識すること」について学べると良いと感じています。

図28 児童生徒の段階で、どのようなことを学べば自殺予防に資するか



注) 全国調査の結果は、「平成28年度自殺対策に関する意識調査」(厚生労働省)のデータを使用しています。